

令和6年6月定例市議会

行政報告要旨

総 社 市

本日、6月定例市議会を招集いたしましたところ、議員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席くださいまして、誠にありがとうございます。また、日頃から市議会の皆様には、議会運営に格別のご配慮を賜り、重ねてお礼申し上げます。

まず初めに、5月24日に職員が逮捕された件につきまして、被害者の皆様をはじめ、議員、市民の方々に対し、多くの失望と御迷惑をかけたことにつきまして、深くおわびを申し上げます。本当に申し訳ございませんでした。

このような事態が起こったことについて、私自身、大変反省し、これまで職員とともに築き上げてきた市民の皆様との信頼関係にひびが入る、重大な事件として、深く、深く受け止めています。

逮捕の一報を受けて、市幹部を招集し対応を協議いたしました。今回の事態を職員が自分のこととして捉え、二度とこのような事態を起こすことのないよう、全職員との話し合いの場を設け、ひとりひとりの意識を高め、再発防止と信頼回復に向け、改めて丁寧な対応を心がける決意をしたところで

ございます。

1) 平成30年7月豪雨災害 6周年行事

7月6日に、平成30年7月豪雨災害から6年を迎えます。これまで、美袋、秦、長良地区の排水機場整備、砂古地区の排水ゲート整備、下原地区の避難路整備など、約16億6千万円の単市によるハード整備事業を実施いたしました。さらに、国や県による、一級河川高梁川の堤防整備をはじめ、高梁川本川や軽部川、新本川などの、樹木伐採・浚せつなど総額267億円にのぼる事業を実施していただき、深く感謝しております。軽部川については、現在、浸水被害を軽減するための調査・研究も実施しており、今後の対策を国・県・市の総力戦により進めてまいります。

一方、あの大災害の記憶は確実に後世に継承していかなければならず、それが私の責務でもあります。今年は7月6日に市役所内に犠牲者を悼むため献花台を設け、パネル展を実施します。

大災害の記憶を決して風化させることなく、水防訓練や地

域での防災訓練の実施などを通じ、引き続き、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

2) 総社市の財政状況について

令和5年度の決算につきまして報告いたします。一般会計では、歳入総額約304億円に対し、適正かつ効率的な予算執行に努めた結果、歳出総額は約299億円で、翌年度繰越額を差し引いた実質収支額は約3億7千万円の黒字となる予定であり、財政調整基金の取り崩しはありません。

予想以上の税収に助けられた結果であり、市民の総力に心から感謝いたします。

3) 人口増の正念場

～「人口増減のターニングポイントをいかに超えるか」～

令和5年度から「人口増推進室」を設置し、人口増への挑戦を掲げた年でありましたが、近年、減少傾向にあった人口が、昨年度は2年ぶりに152名増加しました。これは大変喜ばしいことと感じております。しかしながら、現在は対前

年比で増加しているものの、伸びについては昨年を下回っており、同時に大変な危機感を感じているのも事実です。

特に、今年度から50戸連たん制度が厳格化されたため、人口増を支えてきた、新築戸建て需要による転入者が今後は大きく減る可能性があります。また、国の令和5年の合計特殊出生率は1.20と過去最低を更新すると先日報道されたところです。総社市においては、最新数値である令和3年の合計特殊出生率が1.58と、国の水準を上回っておりますが、令和4年、5年と出生数は減少しているため、決して油断できません。

人口を取り巻く状況は非常に厳しいものがある中で、今年度は、人口増を維持できるかどうかを試される1年であり、まさに正念場です。

この難局面を総力戦で乗り越えていくため、実に総額6億円の「人口増パッケージ」を4月から本格稼働させています。

総社で生まれた赤ちゃんと家族をお祝いする「そうじゃ出産おめでとうギフト」の贈呈や、中学校の給食費無償化など、これまで以上に、総社で生まれて、育って良かったと思える、

子育て世帯にとことん優しいまちを目指します。

さらに、自由枠交付金の増額や総額1億円の道づくり予算を投入し、生活環境を向上させ、さらに元気な地域を創造していきます。人口減少地域でも、いきいきと暮らし続けられるよう、地域の実情に即した施策を進めてまいります。

また、50戸連たん制度が厳格化された今、空き家の利活用はますます重要なカギとなります。「そうじゃ空き家対策パッケージ」により、市内約1,600戸の空き家について、地域を巻き込みながら活用を進め、空き家問題の解決、地域活力の向上を図るとともに、転入者の受け皿とし、人口増へつなげてまいります。

一方、人口増を目指していく上では、転入者の求める新たな住宅用地の確保、雇用の創出も重要と考えております。

まず、住宅用地の確保としては、令和8年度の都市計画マスタープランの改定に合わせて、国道180号バイパス沿線をターゲットとした市街化区域の拡大を検討してまいります。

また、地域特性に合わせた地区計画の策定を支援し、人口

が維持できるような元気な地域づくりを進めてまいります。

次に、雇用の創出については、現在長良・西阿曾地区で、地域未来投資促進法を活用して、コアテックや岡山土地倉庫による企業立地が進んでおり、これにより新たな雇用の創出や税収が生まれることを期待しております。これにとどまらず、さらなる企業誘致の適地を引き続き模索してまいります。

4) 総社の魅力拡大 ～全国に誇れるまちへ～

4月から昭和五つ星学園義務教育学校・幼稚園が開校いたしました。ご存知のとおり、本学園は、全国どこからでも、どの学年からでも入学・転入学ができるようになっており、5月時点での子どもの人数は215人ですが、この内47.9%の103人が学区外からの入学となっております。これだけの人数が五つ星学園の教育環境に魅力を感じ、選んでくれたこと本当にうれしく思います。この期待に応えることができるよう、さらなる教育環境の充実に取り組むとともに、市内外への魅力を発信し続けてまいります。

また、昨年度休園していた神在幼稚園は、4月から7人の

園児を迎え再開し、その後もひとりの入園があり、地域に子どもたちの明るい声が響くようになりました。本市では幼稚園の受入れ時間を拡大するロングタイム化や給食の提供など幼稚園の魅力化を進めており、今後もさらなる園児の受入れ増に努めてまいります。

（古墳を通じた魅力発信）

先般の記者会見でも発表したとおり、今年度から令和14年度までの9年間、予算約6千万円をかけて、「史跡作山古墳調査活用事業」を実施いたします。その基本方針を定めるため、専門家による委員5名と文化庁及び県教育委員会2機関のオブザーバーからなる「史跡作山古墳調査指導委員会」を設置し、7月1日に第1回会議を開催いたします。調査にあたりましては、指導委員会からのご指導のもと、関係機関と協力・連携しながら進めてまいります。

本調査活動終了後は整備事業を開始します。市民の誇りとなる歴史的ランドマークとできるように鋭意取り組んでまいります。

また、5月22日にはこうもり塚古墳からの出土品353

点を市の重要文化財として指定いたしました。全国でも有数の巨大石室を持つこうもり塚古墳を、全国に発信する新たな契機になるものと考えております。

作山古墳，こうもり塚古墳，鬼ノ城そして国分寺。そのほかにも各時代に築かれた魅力あふれる史跡の数々を，広く発信して全国に総社のファンが拡大するとともにインバウンドの獲得にも努めてまいります。

5)「さらに市民が住みやすい街・住み続けたい街」にするための新たな挑戦

(総社版ライドシェアの実現)

市内全域を対象としたデマンド交通である「雪舟くん」は、全国でも類を見ない取組としてスタートし、現在も多くの市民にご利用いただいております。しかし、開始から13年が経過し、多様化する市民ニーズに十分対応できていない側面もあります。そんな移動困難者のニーズを満たすための新たな取組として、「総社版ライドシェア」を実現したいと考えております。今回補正予算として計上させていただいている

532万円を活用し、道路運送法第78条の2号でも3号でもない、地域住民の共助によるボランティア型のライドシェアを構築してまいります。

(感染症対策の徹底)

同じく補正予算には、新型コロナワクチンの定期接種への助成を計上させていただいております。新型コロナウイルス感染症は5類に移行し、ワクチン接種は自己負担が必要になりました。高齢者の方など感染リスクの高い方が安心して暮らせるよう、ワクチン接種に対し、県内でも高水準となる助成を実施したいと考えております。市民の安心・安全を守り、住みやすいまち・住み続けたいまちとなるよう進めてまいります。

6) その他

(令和6年能登半島地震への支援)

令和6年能登半島地震の復旧・復興にあたるボランティアの活動拠点として、3月24日から活動していた石川県七尾市ボランティアテント村が5月29日に閉村いたしました。

共同運営にあたった赤磐市，海老名市，鎌倉市，南砺市，東大阪，和泉市そしてNPO法人ピークエイドの協力もあり，この間5，401人のボランティア活動を支え，1，123軒の被災家屋の支援につなかりました。テント村は閉村し，人的な支援については終了いたしました，これまで集まった支援金1，000万円を，「そうじゃ能登っ子基金」として奥能登のこどもたちを中心に，笑顔で元気になれる活動に充て，寄り添い続けたいと考えております。

（定額減税補足給付金支給事業の開始）

6月から定額減税がスタートします。減税しきれない方には，差額を給付する制度となっております。給付対象となる方に対しては，6月中旬以降に準備が出来次第通知し，スマホ市役所を活用して早急に給付金をお届けできるよう進めてまいります。

7) 2月議会での検討について

ここで，2月議会での検討事項につき，その結果をご報告いたします。

萱野議員から、街路樹の伐採を進めた方が良い路線がある
とのご提案がありました。これについては、土木担当員に意
見を聞き、市役所から国道１８０号までの中央本線は、６月
中に伐採を開始いたします。

また、山田議員から、耐震化普及啓発の推進のため、防災
ベッドの実物を展示してはどうかとのご提案がありました。
これについては、「耐震化のすすめ」を６月３日から昨日の
６月１３日まで市役所１階ロビーで実施し、防災ベッドを展
示するなど、耐震化の重要性を啓発しました。

これまでも、人口減少の危機を幾度と乗り越えてきた総
社市ですが、今年度は本当に最大の正念場であり、試される
１年であると言えます。これまで以上に市民に寄り添い、誰
にとっても一番やさしいまちそうじゃ、選んでもらえるまち
そうじゃとなるよう、全庁一丸となって全力を尽くしてまい
ります。

議員の皆様をはじめ、市民の皆様におかれましても、これ
までと変わらぬご理解と、ご協力をお願い申し上げ、私から
の行政報告とさせていただきます。